

雲城公民館エリアにおける地域農業の将来について考える ～小さな郷づくりに向けて～

浜田市立雲城公民館

1 雲城公民館エリアの概要

雲城公民館エリアの人口は約 2,500 人、集落(町内会) 21 の地域である。基幹地域には、スーパー、コンビニ、個人商店、GS、小学校、中学校、保育所、公民館、運動施設、郵便局、銀行、JA、医院、歯科医院、介護施設、福祉施設、各支所(市役所、社協)、商工会議所、消防署、警察派出所、国道 186 号線には路線バスが通うなど、住みよい地域である。そして、この基幹地域の近くに出来ている新興住宅地には若い人が移り住み子どもも多い。

しかし、これらの地域を除く周辺の集落は中山間に位置する農業地域である。ここでは過疎・高齢化が進行し、農地の維持・保全に課題を抱えてきている。高齢者だけの世帯、一人住まい、無住の家も増え、現に耕作放棄地、空き家などが随所に見られる。

このまま何もしなければ、5年後、10年後には、加速度的に農地の荒廃は進行することが予測される。このことは居住環境、景観が荒廃することであり、住む人の生活意欲が減退すると同時に、U・Iターンは勿論のこと、そこで育った子どもの帰郷も望めなくなる。新興住宅も高齢化に向かうことから、エリアの人口はどんどん減り、基幹地域を支える人がいなくなると考えられる。

2 事業の趣旨とねらい

「小さな郷」である集落一つひとつが、人口減少、高齢化の中で問題意識を持ち、そこに住む人たちの手で農地を維持・保全しようとする動きをはじめ、希望を見出し、集落を何とかしようとする機運を高めていきたい。

「小さな郷づくり」とは、郷の課題にそこに住む住民が関心を持ち、話し合いを通して課題を共有し、その解決に向かった話

合いと具体的な取組をする郷のことである。そういう「小さな郷づくり」を目指す人づくりをしていくことがねらいである。

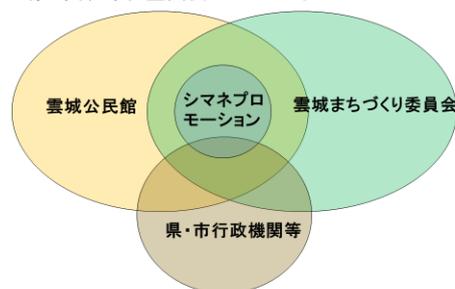
3 具体的な取組内容

事業は雲城公民館、雲城まちづくり委員会共催とし、行政機関、シマネプロモーションなどの協力を得て行う。

(1) 企画会

ねらい、実施方法・時期、対象者、実施者などについて企画会議をもった。構成は、雲城公民館、雲城まちづくり委員会、くもぎ広域集落協定、くもぎみどり、浜田市生涯学習課、金城支所関係課、浜田市農林業支援センター、県農林業振興センター、西部県民センター地域振興課他とした。トータルコーディネートは公民館が行うが、今年度はスタート期となるので、専門的立場からのアドバイスを得るため、シマネプロモーションの力を借りた。

第1回、2回 企画会メンバー イメージ



(2) 「全住民対象アンケート」の実施

中高生と一般に別け全住民対象にアンケートを実施し、雲城エリア全体の課題の把握や農業に対する意識調査を行うこととした。アンケートの作成は西部県民センター地域振興課の協力を、アンケートの分析は中山間地域研究センターに依頼した。

中高生実施数 77 回収 58 率 75%
一般実施数 1,995 回収 987 率 52%

(3) 「金田町内のつどい」の実施

H28年度の「小さな郷づくり」の対象として金田町内を選び実施した。金田町内は人口144、世帯数58で、農地を持つ昔からの住人が1/3、家を建て以前に移住して来た人が1/3、近年移住して来た人が1/3で構成され、高齢化率40%、子ども18人の集落で、云わば雲城エリアの縮図的な存在である。

ア 第3回企画会

雲城公民館、まちづくり委員会、関係行政機関に加え、金田町内代表者に参加してもらい会議をもった。そのことで具体的な町内の現状が把握でき、「金田町内のつどい」の実施計画及び参加呼びかけのチラシを作成した。

イ 「金田町内のつどい」

- ① アンケート結果から見えるもの
男性は農業・産業のこと、女性は生活・景観のことが多かった。
- ② 伊木集落の集落づくり事例発表
先進的に集落づくりに取り組んでおり、共同取組、子供を大切にを軸に取り組んでいた。
- ③ 話合いましょう
30人の参加者を4グループに分け、それぞれに企画会メンバーをファシリテータにしてワーキング形式の話合いをした。

金田町内のつどい 話し合い



4 評価と成果

(1) 第4回企画会

「金田のつどい」の反省と成果

小さな単位(町内単位)で取組んだことで活発に課題や意見が出され、課題や意見を共有できた。

課題として、コミュニティ、農業、景観、空き家、災害対策など予想され

たことに加え、役員だけに任せすぎ、もっと住民全員が関心をもつことが大切など前向きな意見が出て期待した以上の成果があった。

「今後の具体的取組」について

子どもをキーワードにした取組をすることでコミュニティの構築を図る。農業の共同化、機械の共有の話を進めることを町内会に提案する。

町内会で協議されたことを企画会に報告してもらい再協議する。その結果を町内会に再提案し、話合いを持って貰う。

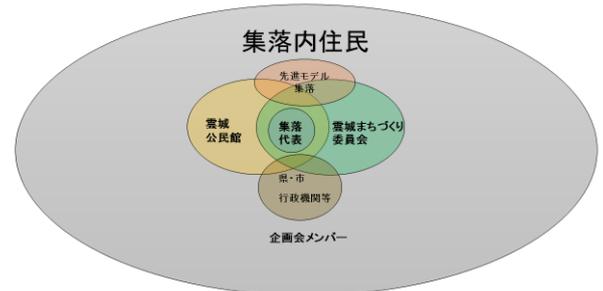
最終的には「町内会の課題」として解決策を練り、取組んでもらう。

公民館、まちづくり委員会は関心を持ち続け助言を行う。

5 今後の課題と見通し

- (1) 「小さな郷づくり」を一つずつ進める。
 - ・小さい単位(集落単位)で進める。
 - ・該当集落の代表数名を企画会に参加してもらい徹底的に対策を練る。
 - ・該当集落に企画会チームが出かけて、「集落のつどい」を行う。
 - ・該当「集落のこと」として解決をするよう働きかける。

今後の小さな郷づくりへ向けてのイメージ



- (2) H29年度、2集落で「小さな郷づくり」を公民館とまちづくり委員会共催で、協力したり、分担したりして進める。雲城エリアに3~4集落の「小さな郷づくり」ができれば、相乗効果により他集落に広がると期待している。

(文責:館長 岡本修治)